



岩沼市の産業振興

布田 恵美

問 仙台空港運用時間延長が取り沙汰される中で、岩沼の地名がメディアに登場することも多くなっている。一方、「市内に1000社近い会社があるが、知る機会がない」という児童を含めての市民の声がある。製造している製品展示を通じて、出展者、来場者共に地元企業を知る機会として、またビジネスチャンスにもつながることを目指して、以前開催していた工業見本市を再開してはどうか伺う。

関係の催しとの連動で、大きな賑わいがあった。今後開催する折には、「(仮)岩沼ふるさと市」として、農業・工業・商業を連動した形で市内の中小企業、飲食業なども参加しての開催を考えてみてはどうか伺う。

商工観光課長 平成20年度から3年間開催していた工業見本市は、市町村単位では県内初の試みでしたが、震災で中止になった経緯があります。震災から7年が経過して市内企業の状況も変わっていますので、工業見本市の中心的な役割を担っていた商工会とも協議しながら再開の可能性を検討したいと思います。

商工観光課長 中小企業、飲食業などの参加についても、商工会と協議したいと思っています。

問 市長の地域産業振興に対する考えを伺う。

市長 岩沼は企業を誘致しながら、雇用の確保、岩沼の魅力を高めようとしています。企業PRも含めて、今後、商工会の皆さんとこういう現実的な話をぜひしていきたいと思っています。

岩沼ふるさと市の開催を

問 以前の工業見本市開催時には、会場の勤労者活動センター向かいのハナトピアで、収穫祭など農業



◎その他の一般質問
・環境保全対策



仙台空港周辺環境整備基金

須藤 功

問 大震災前の基金は5億円あった。平成29年度末で4億円ある基金積み立ての経緯について伺う。

問 名取市もこういう基金がある。名取市では、北釜地区だけではなくて空港の北側の下増田、着陸をしていく愛島、そういうところまで広範囲に使えないかという話である。岩沼の場合は、旧相野釜と矢野目地区にしか使えない基金なのか。

総務部長 基金は先の滑走路延長や運用時間の14時間化の覚書締結の際、空港と空港周辺地域が共生し、共に発展すべきであるという理念で、空港周辺地域の生活環境整備等を図ることを目的に、県が交付金を交付し、市で基金を創設しました。

市長 市としてしっかりと公共的な部分に使うことが原則ですから、あまり地区にこだわる必要はないと思います。

問 宮城県から約5億円の基金(交付金)があったということか。

基金対象範囲を広げては

総務部長 基金については、昭和62年から平成5年まで計8億円、平成6年から平成16年まで毎年1億円ずつで11億円、両方合計しますと、19億円が交付されています。

問 矢野目地区は下水道が入っている。五間堀川を挟んだ南側の林地区、それから下野郷地区には下水道は入っていない。都市計画決定もあるが、下水道の整備もこの事業で行ったのか。

現在、基金残高はいくらか。

総務部長 下水道についてもこの基金を活用しています。

総務部長 今年度末で、1億8千万円程度と見込んでいます。

問 仙台空港滑走路延長上にある志賀、小川、長岡地区も空港周辺として見直し、空港周辺地域に加えるよい機会ではないか。

総務部長 対象地域は矢野目地区、旧相野釜地区の周辺になるかと考えています。

総務部長 対象の地域を拡大する考えはありません。